

■ VISTA 5 M2 ユーザーレポート

九州朝日放送株式会社 様

VISTA 5 M2 - 32

KBC

ラジオ第1スタジオをVISTA 5 M2で更新



九州朝日放送株式会社
ラジオ局 編成業務部
皆元 健太

KBC ラジオ第1スタジオ

KBCラジオ第1スタジオ（以下、1スタ）は、約100名を収容し、公開生放送・公開録音が可能で、かつてElton JohnやGeorge Winston、Michel Polnarefらが弾いたこともあるSTEINWAYのピアノ（1959年～）が存在感を示している歴史あるスタジオです。

1スタとVISTA

生放送でワイド番組中心のメインスタジオ（2スタ）とは異なり1スタの用途は幅広く、生放送対応はもちろん、通常の番組収録からCM収録、バンドの録音、ProToolsによるマルチトラック録音及びHUIコントロールを利用したミックスダウンな

どが行なわれています。また、スポーツ中継では毎年12月に行なわれる福岡国際マラソンラジオ実況中継で放送センターとなります。

ところで、KBCの通常のラジオ番組収録の場合、技術スタッフがミキサーをオペレーションすることは少なく、ほとんどの番組が技術的な専門知識のない制作スタッフが行なっているというのが現状です。しかし先述のとおり1スタの役割上高度な機能も必要としており、つまりスタジオ更新を検討するとき、ミキシングコンソールはユーザーのスキルの差に対応できるもの、が必須条件でした。I/Oの問題であれば「大は小を兼ねる」という発想でよいのですが、スキルの差を解決するミキシングコンソールの選定は結構難しかったという感想です。こうして、VISTAシリーズが更新機種種の候補に挙がりました。

一番良かったこと

2012年2月に導入したVISTA 5 M2は直感的に操作しやすいのが一番の特徴ではないかと思えます。EQやDYNを変えたければその部分のパネルをタッチすればよく、ストレスのない簡単操作なので、自分の感性だけに集中することができます。また、デジタルコンソールを敬遠しがちなアナログスタッフには、基本的に同じタイトルの同じプリセットで運用するようレクチャーしていますの

で、通常の運用で困ることはほとんどありません。逆に、慣れたスタッフはVISTAの機能を普通に使えばよいのです。また、STRIP SETUP / GENERAL PATCHも視覚的で、ちょっと気に入らないフェーダー配置はすぐに変更、またパッチ変更も簡単です。基本的に通常の番組ではほぼパッチレスでの運用が実現できています・・・

と、VISTAを随分褒める記述ばかりになってしまいましたが、今回の更新で一番良かったのは、音質の良いVISTAをはじめとする新しい機材を導入することによって、制作スタッフの音作りに対する意識が明らかに高くなった点だと思えます。「音が良ければさすが1スタ」、「音が悪ければ自分のせい」なので、自然と各自のスキルも上がり、内容はもちろん音質でもリスナーの期待に応えよう！というラジオ局として当たり前のことを改めて考えさせてくれたコンソール、それがKBCにとってのVISTAといったところでしょ。

